

研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-242

研究課題名：東北大学医学部における漢方学生教育-医学教育推進センター実施アンケートによる学生評価-

研究期間 西暦 2013 年 9 月（倫理委員会承認後）～2018 年 3 月

対象材料

病理材料（対象臓器名 )

生検材料（対象臓器名 )

血液材料 遊離細胞 その他（アンケート調査）

上記材料の採取期間 西暦 2009 年 4 月～2012 年 3 月

意義、目的

<背景> 2001 年から文部科学省医学教育モデル・コアカリキュラムに、「和漢薬を概説できる」という文言が採録された。それから 10 年以上を経て 2011 年には、医師の 8 割以上が何らかの漢方薬を使用しているという報告がなされるまでになった。更に、2011 年からはモデル・コアカリキュラムの記載が「和漢薬（漢方薬）の特徴や使用の現状について概説できる」という内容に改訂され、漢方教育の質の向上の必要性が高まってきている。現在、日本国内 80 大学中、全ての大学において漢方教育は行われているが、教育内容には各大学でのばらつきが大きく、教育の方向性が模索されている。質の高い教育の構築にはフィードバックが必要不可欠である。東北大学医学教育推進センターは、学生教育の質の向上を目的として、大学病院内で行われる臨床医学修練の際、医学部生を対象に臨床実習を担当する全科に関するアンケート調査を 2006 年度から行ってきた。

<目的> 本研究では、漢方実習の問題点を抽出し今後の漢方教育の変革に生かす目的で、過去のアンケート調査を集計し、解析することとする。

<意義> 漢方教育内容を全診療科と比較した報告、研究はこれまでになく、医学教育における漢方教育の質を考える上で意義のある研究である。

方法

<方法> 漢方内科が診療科として独立し、臨床実習を受け持つようになった 2009 年度から 2012 年度までの期間について、東北大学医学教育推進センターが医学部 5 年生を対象として行った、臨床医学修練のアンケート結果を後ろ向きに調査、検討する。倫理的側面に関して、アンケート結果は医学生個人に関する情報を連結可能匿名化してから使用する。アンケート調査表の項目は、①実習予定の明示、②学ぶ機会の提供、③医学知識の指導、④態度に関する点、⑤診療科の理解、⑥診療参加の促進、⑦患者と接する機会、⑧診察方法の指導、⑨総合評価からなる 9 項目であり、各々 5 段階で学生が評価する。これらの項目について、臨床実習を受け持つ全診療科平均と比較し、漢方内科の実習内容に関する改善点を検討する。

問い合わせ・苦情等の窓口

<問い合わせ先>

東北大学病院 総合地域医療教育支援部・漢方内科

電話番号：022-717-7587（総合地域医療教育支援部 医局）

E-mail: takayama@med.tohoku.ac.jp もしくは tatahara1492@gmail.com

担当：高山真